



誰かを幸せにする Well-Being Cut a wall out!

児童養護施設の現状

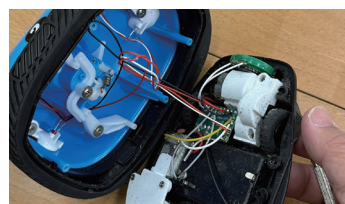
私たちは、児童養護施設の子どもたちに「楽しい時間」を届ける活動を続けています。学習支援や物資の寄付も大切ですが、それと同じくらい「一緒に遊ぶこと」が心を豊かにすると考えています。

しかし、児童養護施設の現状はあまり知られていません。子どもたちがどのような環境で生活し、施設がどのような役割を果たしているのか。今回は、支援活動を続ける中で感じたことをお伝えします。

児童養護施設で暮らす子どもたち

児童養護施設には、さまざまな理由で家庭で暮らせない子どもたちがいます。例えば、親が病気で育てられない、経済的な事情で養育が難しい、そして近年増えているのが、虐待による入所です。

全国の児童相談所には毎年多くの虐待相談が寄せられています。実際、施設で暮らす子どもたちの約65%が虐待を経験しているといわれています。ただし、「すべて



最近はお絵かきの機会も増え、みんなで一緒に楽しんでいます。様々な絵をリクエストされたり、信頼して買っているのかな、という場面も増えました。壊れたラジコンは自分たちで修理。

の子どもが虐待の被害者」というわけではありません。それぞれの背景があり、事情も異なります。

共通しているのは、「子どもたちが自分で選んだ環境ではない」ということです。だからこそ、児童養護施設は、安心して暮らせる場所である必要があります。

里親制度の推進と施設の役割

日本では、社会的養護を必要とする子どもが約42,000人いるとされています。そのうち、児童養護施設で生活しているのは約32,000人。一方で、里親に委託される子どもは約10,000人とどまっています。日本政府は、できる限り家庭に近い環境で子どもを育てるべ

きだとして、里親制度を推進しています。確かに、安定した家庭での養育が理想的ではありますが。しかし、すべての子どもがすぐに里親のもとで生活できるわけではありません。児童養護施設は単なる「一時的な避難所」ではなく、子どもたちが安心して暮らせるもう一つの居場所です。その役割は、家庭に代わる生活の場であり、心のケアを行う場所でもあります。

施設の小規模化と職員の負担

児童養護施設の形態も変化しています。これまでのような大規模な施設ではなく、家庭に近い形で少人数のユニットで生活する「小規模化」が進められています。

しかし、その一方で職員の負担が増えているという課題もあります。

子ども一人ひとりに丁寧に関わることが求められる中で、施設の職員は昼夜を問わず子どもたちのケアを行っています。日々の生活支援に加えて、心のケア、進路相談、地域との連携など、仕事は多岐にわたります。

施設の先生方は「子どもたちのために」とい

う想いで働いていますが、限られた人員の中でその負担が大きくなっているのが現状です。

地域社会と施設のつながり

児童養護施設は、地域社会とどう関わることが今後の大きな課題です。施設の外の人々と交流する機会が増えれば、子どもたちは社会に出る準備がしやすくなります。たとえば、地域の企業が職場体験の場を提供する、地域の大人たちがボランティア



機材も少しずつ傷んできておりますが、修理を出来る部分は自分たちで修理をし、無駄な費用がかからないように工夫しています。それでも、壊れてしまう機材がありますので、都度補修したり、新規購入したりします。そのためにも、皆様からのご支援・ご寄付は活動継続に必要です。

として関わるなど、「子どもたちは一人ではない」ということを実感できる機会が大切です。

私たち「かたわら」も、地域とのつながりを大切にしながら活動しています。

「かたわら」が目指す未来

私たちの活動は、特別なことではありません。ただ、「一緒に遊ぶ」というシンプルなものです。でも、それが子どもたちの記憶に残り、心を支える何かになればと思っています。

たとえ施設を卒業して社会に出たあとでも、「楽しかったな」と思い出してくれる時間があれば、それはとても意味のあることではないでしょうか。

また、その経験を元に、施設の卒業生がかたわらの活動を引き継ぎ、後輩たちに同じ事をしてあげられるような、そんな状況が実現するように、今から準備をしています。誰かに何かをしてあげられる、というのは自分自身にとっても自信になるのではないかと思っています。



写真提供：フォーミュラ Enjoy 協会



「かたわら」公式
<https://katarawa.fun/>

豊田 佳明 (とよたよしあき)

自動車 / モータースポーツを通じて、こどもたちのかたわらに立ち続ける活動「かたわら」の代表。ベンチャー企業、その後 1 部上場企業で IT エンジニアとして過ごし、中小と大企業の醍醐味を勉強する。独立後は映像制作を生業とし、元ネットワークエンジニアの強みを活かしネット上でのライブ配信も得意とする。ウェルビーイングを実現するための活動を続けながら、三重県鈴鹿市の K&G レーシング様にて、Formula Enjoy レース出場に向けて目下練習中。

児童養護施設の現状は、決して簡単なものではありません。でも、一人ひとりができることを少しずつ積み重ねていけば、子どもたちの未来は変えられると信じています。これからも、皆様のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

支援やお問い合わせは公式 HP まで！



<https://katawara.fun>



概要

「かたわら」は、小さな手がハンドルを握る瞬間に、世界が広がる奇跡を信じています。私たちは、児童養護施設の子どもたちに、モータースポーツを通じて無限の可能性を感じてもらおうためのプロジェクトです。子どもたちに贈るのは、ただのゲームではなく、人生のレースを乗り越える勇気と喜びの時間です。

疾風のように駆け抜ける子どもたちの笑顔が、私たち「かたわら」の原動力です。児童養護施設での毎月の集まりは、ただの遊びではありません。それは、心の扉を開く鍵となる貴重な時間です。一緒に、子どもたちの心に共鳴する冒険を始めませんか？

目を輝かせる子どもたちが、一斉に画面に集まり、レースの世界に飛び込んでいくその瞬間を想像してみてください。

私たち「かたわら」の活動は、そんな心躍る体験を、児童養護施設の子どもたちに毎月届けています。この小さなイベントが、彼らの日常に色を加え、新しい夢を描くきっかけになることを願っています。

世の中には、こんなにも心を弾ませる瞬間があるんだと、子どもたちに実感してもらいたいです。そして、彼らが自分自身という存在を、この世界で確かなものとして受け入れる手助けができれば、それは、私たちにとって最も大きな報酬になります。

スタッフ募集

「かたわら」では、子どもたちの心に光を灯す活動を一緒に創り上げる仲間を探しています。

あなたの温かい手が、子どもたちの未来に希望の光となります。共に、彼らの生きる力を育む事業に参加しませんか？



寄付のお願い

一人ひとりの支援が、子どもたちの未来のページを明るく照らします。ご寄付は、ただの支援ではありません。それは、子どもたちが自分の道を見つけ、歩んでいくための、愛と信頼の証です。私たち「かたわら」と共に、子どもたちに新しい希望の章を開くお手伝いをしていただけませんか？詳しい方法はホームページをご覧ください。また、以下のQRコードからもご寄付いただけます。ご寄付をいただいた方には、定期的に活動報告のニュースレターをお送りいたします。



公式 WEB



500円寄付する